

電気カーペットの事故

事故の概要

【事例①】使用中の電気カーペットの差込みプラグのコードプロテクター付近から火花が出た。

【事例②】使用中の電気カーペットから異音と焦げ臭いにおいがして、コントローラーや畳などが焦げた。

【事例③】電気カーペットが温かくならず、コントローラーから焦げたようなにおいがした。

事故の原因

【事例①】差込みプラグがコンセントに差し込まれた状態でストレスが加えられたため、コードプロテクターの端部の電線が半断線し、異常発熱して絶縁被覆が溶融し、スパークが発生したものです。

【事例②】長期使用(約22年)により、コントロール基板の抵抗が増大し、発熱してカーペットが加熱され、焦げたものです。

【事例③】大きなシワが生じていたため、ヒーター線が重なりあった際の発熱で過熱状態となり、ショートしてヒューズが溶断し、焦げたようなにおいがしたものです。

【NITEの再現実験】



折り畳んでいた部分が加熱され焦げました



事故防止のために

- ◆電源コードを折り曲げたり、ねじったりしないでください。
- ◆本体を広げ、しわのない状態で使用し、重い物を乗せたり、強く曲げたりして、発熱体を傷めないようにしてください。
- ◆保管の際は、折り跡がつかないようにしてください。焦げ臭い、温まりにくいなどの症状があれば、使用を中止して販売店等に相談してください。
- ◆犬や猫などのペットが、発熱体やコードをかじるなどして傷める恐れがありますので、注意してください。

